

名城大学

MEIJO UNIVERSITY



MEIJO
UNIVERSITY

2026

入試問題集

大学院入試 2月14日実施

◆ 解答例・出題の意図 ◆

本学では、令和 9（2027）年度入試より入試日程の増設など、入試方式の見直しを行っていますので、出願前に必ず入試情報サイト「MEIJO NAVI」や入試ガイド（以下 URL および QR コード）をご確認ください。

入試ガイド 2027 : <https://www.meijo-u.ac.jp/admissions/pamphlet/>



目 次

2月14日実施

総合学術研究科 修士課程

英語（一般二次）	2
----------------	---

解答例

問 1

誰もがストレスを経験する。ストレスは、新しい状況や困難な状況に対する身体の内体的・感情的な反応である。仕事、学校、健康、人間関係など、様々な問題に直面したときに起こる。ストレスを感じることは正常な対処反応であり、問題解決能力に対する健全な感覚を育むことができる。しかし、ストレスが長期にわたる場合、いわゆる慢性ストレスと呼ばれる状態になり、健康問題の悪化につながる可能性がある。

ストレスは以下のような症状を引き起こす可能性がある。

- ・恐怖、怒り、悲しみ、心配、無感覚、フラストレーション
- ・食欲、活力、欲求、興味の変化
- ・集中力や意思決定の困難
- ・悪夢や睡眠障害
- ・頭痛、体の痛み、胃の不調、発疹などの身体的反応

健康的な対処法を学ぶことで、ストレスを軽減することができる。日常生活の中でストレスを管理するための小さな一歩を踏み出すことで、大きな効果が得られる。ストレスへの対処法は人それぞれである。ストレスの原因と、自分に合った健康的なテクニックの適切な組み合わせを見つけて管理することができる。

問 2

睡眠は休息の時間のように感じられるかもしれないが、実際には体は新しい記憶の形成など、様々なプロセスに関わっている。研究によると、新しい記憶は最初に作られてから数日間、睡眠中に再活性化されることが示されている。では、脳はどのように睡眠中に古い記憶と新しい記憶の混同を防いでいるのだろうか。

国立衛生研究所（NIH）の資金提供を受けた新たな研究では、睡眠中の古い記憶と新しい記憶の活性化パターンが明らかに、これらの記憶が分離されていることが明らかになった。この発見は、記憶と学習に関する重要な知見をもたらすものである。

ヒトと動物を対象としたこれまでの研究では、瞳孔の大きさの変化が、睡眠に関連するものも含め、脳の状態の変化を示す指標であることが示されている。本研究では、コーネル大学の Antonio Fernandez-Ruiz 博士、Azahara Oliva 博士らは、これらの睡眠状態が脳が記憶の干渉や重複を回避するのに役立っているのではないかと考えた。

No.1

研究者たちはまず、マウスの睡眠中の瞳孔の変化を調査した。マウスは目を開いたまま眠るため、研究者はこれらの変化を追跡しやすくなる。研究者たちは、マウスの瞳孔がレム睡眠中には縮小するのに対し、ノンレム睡眠中には縮小と拡大を繰り返すことを発見した。

ノンレム睡眠は記憶が定着する時間である。レム睡眠とノンレム睡眠の間で瞳孔の変化に異なるパターンが見られることから、研究者たちは瞳孔の挙動から睡眠状態を識別できることを確信した。

No.2

出題の意図

本試験は、公的機関から発信された文系（健康・心理）および理系（神経科学分野）の一般向け英文を素材として、大学院進学後に必要となる英語読解力を評価することを目的とする。

問 1 では、ストレスの定義、慢性化による影響、症状の列挙、対処行動の提案といった構成を正確に把握し、因果関係や条件表現を取り違えずに、箇条書き情報も含めて過不足なく日本語に転換できるかを確認する。

問 2 では、睡眠中の記憶の再活性化と新旧記憶の干渉回避という研究課題、瞳孔変化を指標とした観察方法、レム／ノンレム睡眠の差異と解釈といった論理展開を読み取り、専門的な語彙・概念を文脈に即して適切に和訳できるかを評価する。

No.3